資源回復計画推進調査事業

雄として扱われるニゴロブナ雌の特徴

酒井　明久

◆背景・目的

ニゴロブナは鮒ずしの材料として利用されるため、成熟が進んだ雌の商品価値が高い。しかし、雄として扱われる漁獲物には未熟な雌が含まれることが知られている。そこで、できる限り合理的な漁獲を目指すため、雄扱いされる雌の特徴(成熟度や年齢)を調べた。

◆成果の内容・特徴

- 平成19年2月下旬～3月下旬に刺し網で漁獲された401尾のニゴロブナを対象に、雌雄の銘柄別に、年齢、性別、全長および生殖腺重量指数(GSI)を調べた。
- 性別が雌のフナは、GSIが概ね5%を超えると銘柄”雌”、これ以下では銘柄”雄”として扱われた(図1)。
- 平成19年に銘柄”雄”に含まれていた雌の割合は5割に達し、このうち1歳魚が7割を占めた(図2)。
- 性別が雌の1歳魚と2歳魚の GSIを比較すると、1歳魚の GSIは常に同時期の2歳魚より低かった(図3)。

◆成果の活用・留意点

1歳魚の雌は成熟が遅く、商品価値の低い雄として扱われる割合も2歳魚以上と比べて高いと考えられる。したがって、1歳魚が多く含まれる全長22cm以下のフナの漁獲制限は、”もったいない”漁獲を減らすと同時に、1歳魚に産卵の機会を与え、資源回復に貢献することが期待される。

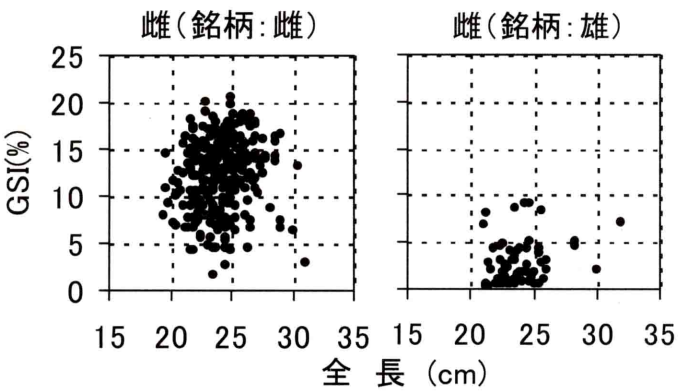

図1. 性別が雌の銘柄別の生殖腺重量指数.

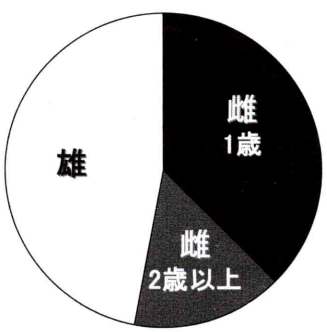

図2. 銘柄 “雄” に含まれる雌の割合.

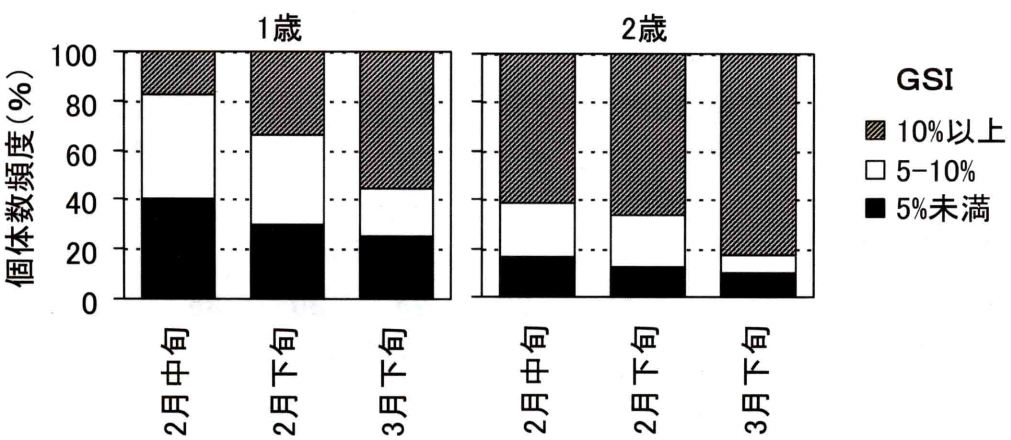

図3. 性別が雌の1歳魚と2歳魚の GSIの推移.